



# パウロとパレスチナ・ユダヤ教

## 宗教様態の比較

E.P.サンダース [著] 浅野淳博 [訳]



ユダヤ教は行為義認の宗教なのか？

そうでなければ、パウロはユダヤ教の何を批判したのか？

現代の聖書学に先鞭をつけた稀代の名著、40周年記念版からの待望の翻訳！

1977年に発行されるや、「義認論」をめぐってキリスト教界を揺るがし、今も大きな衝撃を与え続ける記念碑的著作。「パウロに関する新たな視点」(NPP)を理解する上で不可欠な書。

「本著ほど、発刊とともに大きな衝撃を与え、その影響がこれほどに持続している著書は、聖書学の領域において非常に稀だ。著者E.P. サンダースは、当時入手可能だった前200年～後200年にわたるパレスチナ・ユダヤ教文献のほぼすべて——初期のラビ文献、当時公刊されていた死海巻物、そして旧約聖書外典と偽典——を総合的に分析して、かつて新約聖書学者が1人としてなし得なかったことを成し遂げた。彼が目指したことは、ユダヤ教神学の中心的思想を確定し、これをパウロ神学と比較しつつ、両者の理解について新たな提案をすることだった」。

「緒言」(初版発刊40周年を記念して)より マーク・A. チャンシー

❖著者 E.P.サンダース オックスフォード大学クィーンズ・カレッジやデューク大学などで教える。著書 『イエス——その歴史の実像に迫る』『パウロ』(いずれも教文館)ほか。

❖訳者 浅野淳博 現在、関西学院大学教授。著書 『新約聖書の時代』(教文館)、『死と命のメタファ』(新教出版社)ほか。

A5判・上製・888頁・定価12,100円(本体11,000円+税) ISBN978-4-7642-7492-1 C3016